

# 丹沢再生

## 第3部 共生と協働

□ 3 □

のみろく山の会のほか、鍋割山の稜線と二俣鍋割線は丹沢山小屋組合と協定を結んだ。大山周

今年10月、水資源保護の協定を  
 県と、森づくりの協定を厚木市、  
 同市森林組合と締結。同市と森  
 林組合の活動に7年間で140  
 0万円を助成する。

市民や企業との協働が続く  
 中、課題も浮かぶ。「神社では  
 ないのだから、規則的に丸太階  
 段が続く登山道は、正直言つて  
 うれしくない」と指摘するみろ  
 く山の会の鈴木さんは、「県と  
 ボランティアが、どのように分  
 担してどのように登山道を整備  
 するのか、多くの人が話し合う  
 場を設けてほしい」と望んでい  
 る。

辺など残る3コースも調整を続  
 けている。

丹沢の保全には企業の貢献も  
 大きい。自動車販売のウエイン  
 ズグループ（横浜市中区、宮原  
 郁生代表）は毎年10〜12月をキ  
 ャンペーン期間として、売的上  
 げの一部と顧客からの寄付を合  
 わせて丹沢・大山自然再生委員  
 会や、かながわトラストみどり  
 財団などに寄付。92年から続け  
 る。累計1億2900万円余りに上  
 る。

「工場を使う水を、将来にわ  
 たって保全したい」と話すのは、

綾瀬市内に工場を置くサントリ  
 ーホールディングス。2009  
 年に県と協定を結び「サントリ  
 ー『天然水の森 丹沢』自然再  
 生プロジェクト」として、東丹  
 沢の県有林577畝を整備す  
 る。このうち標高が高く、いま  
 で県も手入れできなかった2・  
 2畝を「次の100年構想」エ  
 リアと設定。昨年3月、スギ、  
 ヒノキ364本を間伐し、今後  
 も10年単位で間伐を続ける。年  
 間、丹沢だけで約1千万円、全  
 国17カ所の「天然水の森」で計  
 1億円以上を投じている。

丹沢を対象を限定していない  
 が、海老名市内に工場を置くコ  
 カ・コーライーストジャパンも

（石本 健二）

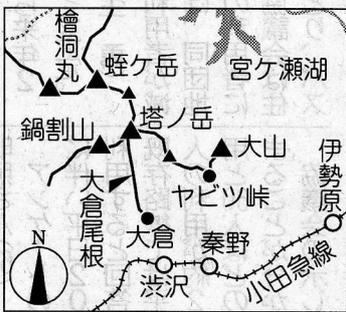
## 登山

塔ノ岳（1491m）に続く  
 大倉尾根の登山道脇で11月、大  
 きな「かけや」を振り上げ、木  
 のくいを打ち込んでいる年配グ  
 ループがいた。横浜市西区に本  
 拠を置く登山者団体「みろく山  
 の会」自然保護部（鈴木茂部長）  
 の9人。毎月第2土曜日、県が  
 造った丸太階段の補修を続けて  
 いる。

「ここは石が少ないな」。鈴  
 木さんが声を上げると他のメン  
 バーが登山道脇の石を集める。  
 「『石屋』さん、よろしくね」と頼まれた男性会員が大きなハ  
 ンマーで石を割り、歩きやすい  
 ような地面に敷いていく。階段の  
 傷んだ丸太を交換し、くいで押  
 さえる。

同会は1983年の創立以  
 来、丹沢のごみ収集を続けてき  
 た。大倉尾根の登山道整備は8  
 年前にスタート。雨水による浸  
 食を防ぐ排水溝「水切り」も40  
 力所設け、大きな効果を挙げて  
 いる。

管理する県は、利用者の多い  
 登山道6コースを、NPOと連  
 携して維持管理を行う「県民連  
 携重点路線」と設定。大倉尾根



かけやを振るってくいを打ち込み、丸太階段を補修するみろく山の会のメンバー＝丹沢・大倉尾根

# くいで打って階段補修